

# 死神転生強制ハード モード

G O—D A 主義

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

転生しました

TSでした

修羅の道しかありませんでした

# 目次

死神転生強制ハードモード

1

第二話

8



# 死神転生強制ハードモード

はい、というわけで突然ですが私、転生しました。

いきなり何を言ってるのか分からないと思いますが許してください。

私だって何が起きてるのか分かっていません。

どこにでもいる会社員としてそこまでブラックでもない会社で普通に働く30手前のオタク男子だった私は、

ある日持病も特には無かったのに突然胸の痛みに襲われたと思ったたらもう見知らぬ場所にいました。

訳も分からず立ち尽くしていると

「どうかしたの?」

と声を掛けられました。

振り返ると

「初めて見る顔だけど、どこから来たのかな?」

としやがんで目線を合わせるお姉さん

背が縮んでいる?と思いつつ

「気が付いたらここに・・・」

と返すと

「そっか、こんなに若いのに・・・」

ここは死んだ人の魂が過ごす場所なの。

あなたは死んでしまったのね。」

あの胸の痛みはもしや心臓系??とここでなんで背が・・・?

そう思いつつ黙り込む私を、

どうやらシヨックを受け固まったと解釈したらしいお姉さんは

「ここは西流魂街1地区【潤林安】とりあえず、行く当てもないなら家にいらつしやい。

生前から妹が欲しかったのよね。」

そう言つて私の手を取った。

TSまでしてるとはたまげたなあ・・・

BLEACHやんけ!?

そうしてTS漫画転生を果たした私。

お約束というかご都合主義というか

例によって霊力があると判って死神になった私はメキメキと力をつけ

原作キャラと絆を深め、

護廷十三隊の副隊長まで上り詰めた。

なんてことは特になく、どちらかという優秀、程度の実力で、三番隊の隊員やってます。

まあ席次もらえない中では一番強いとか、私に勝てたら席次級とか言われてそこそこ有名ではあります。

あ、ちなみにどうやら原作はまだ開始前っぽいです。

私、朽木ルキアの一個下の後輩に当たります

うんこの微妙に関わりづらい立ち位置・・・

TSノーチートモブ転生・・・

まあ、下手にネームドとして目をつけられたり巻き込まれても困るし、いいんですけどね。

でもせっかく漫画の世界に転生したんだし、





失礼、取り乱しました。

えー、描写はしませんでした。私って結構な美少女なんですよ。

そこそこの努力で強くなれる程度の才能

「流魂街では一番の地区出身のという来歴

三つそろって実は転生後人生イージーモードww

とかおもってたんですよね!!

舐めプしてた報いがきましたわ! 死ね! ガツデム!

私の斬魄刀

銘を【贄殿遮那】と申しますう!

始解した瞬間に斬魄刀から話しかけられましたよ...

自分、オリジナルをご都合主義的に改造強化したパチモンやで? と

御存知ない方に向けて説明しますと、この刀っていうか大太刀なんですけど、

「灼眼のシャナ」って作品のヒロインの武器なんです。

ざっくり言うと、あらゆる力の干渉を無効化するって代物です。

どんな自在法(ここでいう鬼道)もこの刃を防げず、この刀を壊せない。

折れず曲がらず、刀剣として最高峰の切れ味を誇る逸品なわけです。

幻想殺しと同じで持ち手までは守ってくれないんですけど。

なんと、転生チートののおかげ？ なんだか知りませんが、正解すると私への干渉も打ち消すそうです。

始解と同時に対話、どころか名前も教えられたわ・・・

これがどういう事か・・・

BLEACHファンの皆様ならおわかりですね？

問一：藍染 惣右介の斬魄刀の能力「完全催眠」は効きますか？

答一：効きません

問二：では、ラスボスの能力で私を見ることは可能ですか？

答二：あらゆる力の干渉を受け付けられないので・・・無理じゃないですかね・・・

問三：愛染、ラスボス兩名は・・・見逃してくださいますかね？

答三：自らの能力が及ばない者を見逃すほどガバい人達だと本気でお思いでしょうか？

つまり、

戦わなければ生き残れない

ヨン様はチート能力使わないでも作中最強クラスの實力じゃん？

ラスボスはそれと渡り合ってたじゃん？

私その最強格二人にピンポイントでメタ張った能力じゃん？

強くなるしか生きる道はないじゃん

私の明日はどっちだ・・・

## 第二話

衝撃の斬魄刀解放後、私は死に物狂いで修行に励んだ。

下手打ったらラスボス格2名が殺しに来るってなったら、

誰だってそーする

私だってそーする

幸い？ な事に私の斬魄刀は見た目が変わるとはいえ一目で特殊能力がわかるものでは無かったため、

尸魂界最“硬”ということにした。

案外皆信じてくれたのはほんと助かったよ。

硬さを売りに脳筋戦法を主体に据え斬拳走鬼を鍛えに鍛えた。

「目立たないように」という制約もあり苦しくもあつたが、現代日本と違い娯楽も少ない、命もかかっているという危機感からか

上手くやれていると思う。

始解から徐々に鍛錬の量を増やしたこともあり、今では立派にメスゴリラ

いや、見た目はゴツくないよ？ まんま日常verのシヤナって感じ。

三番隊から十一番隊に転属して、第四席にまで上り詰めました。ハゲやナルシーと毎日どつき合ってます。

隊長も偶に相手してくれるんですけどやっぱりちゅよい……

まあ？ 更木の剣八と打ち合えるようにはなつたので、ヨン様から一撃死は免れるでしょう。

免れるよね？

……やっぱりもつと頑張らないと駄目なのは……??

死なないために死ぬほど準備するのは当たり前つてこの世界の名言だしネ!!

んで、今原作のどの辺かと申しますと、尸魂界編の中盤あたりです。たぶん。

瀨霊廷内は絶賛警戒中よ。

いや……藍染隊長殺害事件は危なかったね。

丁度桃ちゃん死体（偽）を発見した直後に通りがかつたもんだからなんとか合わせで演技したけど、

あとちよつと早く通つてたら磔にされた隊長の死体をスルーするっていう大失態を

しでかすところよ。

実際私には死体に見えなかったし・・・

山場は越えたし・・・

少し肩の荷が下りた気分・・・

あとは上手くフェードアウトして原作通り進んでくれれば、特に名前も顔も出てこなかった十一番隊第四席は舞台裏で無難に仕事するだけですわ。

今から行われる朽木ルキアの処刑に割り込んだ黒崎君に気絶させてもらえば・・・

ふー・・・やり遂げました!!

無事？ に副隊長達と一緒に黒崎君に吹っ飛ばされて戦線離脱成功ってわけ。

他の人より丈夫なもんだから気絶じゃなくて遠くまで弾かれた形だけど、片手間にあらわれた有象無象感あふれてて非常にグッド・・・

あれ？ この後の流れってどうなるんだっけ??

んーと、旅禍が来て、ヨン様殺害、えーつと、黒崎君と朽木隊長の邂逅があつて：：：  
なんかいったん退散して卍解会得してくるんだつたな。それがさっきの処刑場乱入  
でしょ？

この後、黒崎君が朽木隊長に勝つて、えーつと、うーんと??  
なんやかんやあつて藍染隊長が虚園? に行くんだつたな。

まあ、もう私が出る幕は無いですよ。

尸魂界編・完!!

あ、卯ノ花隊長どうもありがとうございました。

私もう大丈夫なんで、あー：：：えー：：：そうですね、とりあえず隊長探してみま：：：

え? 一緒に? いやー一応私十一番隊なんd：：：

え? 虎徹ちゃんの護衛に?

えー：：：あー：：：

辞退しま：：：せんとも!

是非護衛させてください!

だからそのコワイ笑みをヤメテ：：：

あれ? この後なんかやばくないっけ??

＼（＾o＾）／  
ヨン様なう

あびや———

このタイミングだったっけ!?

よりによつて卯ノ花隊長がヨン様に会う場面にノコノコついて来ることになるなんて・・・

我ながらガバが過ぎませんか：：仕方ないじゃんだって原作読んだの生前ですぜ：：  
どんだけの時間過ごしてきたと思つてんのよ

いや、まだだ、まだ終わらんよ・・・!!



たしか卯ノ花隊長は負傷してなかったような……!!  
ヨン様は離脱したはず……!!  
流れに身を任せて……

---

---

「コレは死体の人形じゃない。」

そう言つて愛染は斬魄刀を掲げた。

その瞬間、目に映る光景に卯ノ花隊長と虎徹ちゃんは驚きを露わにした。

あつ……やべつ

斬魄刀にビビツて身構えたせいで出遅れた……!!

「いつの間……!?!」

藍染に集中していたせいか隣にいた私の反応に気づかなかつたらしい卯ノ花隊長が

問う。

「この手に持っていたさ。さつきからずっとね。ただ、今この瞬間まで、僕がそう見せようとしなかっただけの事だ。

砕ける【鏡花水月】

「僕の斬魄刀、『鏡花水月』有する能力は『完全催眠』だ。」

その破格の能力に慄きつつ、虎徹ちゃんが弱弱しく問うた

「…嘘…だって、鏡花水月は流水系の斬魄刀で…霧と水流の乱反射で敵を攪乱して同士討ちさせるって…藍染隊長そう仰ったじゃないですか…」

眼中にないのか、虎徹ちゃんを無視して種明かしを続ける愛染

「『完全催眠』は五感全てを支配し、一つの対象の姿・形・質量・感触・匂いに至るまで全てを敵に誤認させることが出来る

一度解放の瞬間を見せたものは以降完全に虜となる…のだが、どうやらキミには効いてないらしい。

何故かな、天木君？東仙と違って目が見えぬ訳でもない君には確りと見せておいた筈だが。」

そういつてこちらを見る。

バレテラ（　　ω　　）．．．

卯ノ花隊長たちがギョツとしてこちらに僅か意識を向ける。

その隙を突かれ、藍染に接近された!?

「もう少しで時間だ。あちらで聞こう。」

そう言つて私を投げ飛ばし転移術の圏内に入れた。

---

---

大丈夫、おちつけ私。

死に物狂いで修業を重ねた。

相手は少ししたら虚圏に移動する。

時間まで耐えればいい耐久戦!

ならばまだ生きる目はある．．．!

「ギン、朽木ルキアを回収しておいてくれ．．．

では天木君、聞かせてくれ。

何故、『完全催眠』が効いていない？」

表面上はこやかに、しかし確かな「圧」をにじませながら問う。

「……私の斬魄刀、『贗殿遮那』は神通無比の大業物。あらゆる干渉を撥ね退ける。

その特性を私にもフィードバックしてくれるだけ。

物理的な影響を伴わない能力は私には通らないというだけよ。」

構えながら答えると

藍染は笑みを深めながら構えた

「なるほど。少しばかり鬱陶しい力だ。処理しておこう。神妙にしたまえ、無駄に苦し

ませたくはない。」

来る……!!

「破道の九十六・改『一刀火葬』」

「っ!!」

「……驚いたな、いきなり犠牲破道とは……君程度が発動できるとは思わなかったよ。」

規模も威力も一刀火葬にしては落第点、身体の一部を犠牲にしたとは思えないものだが、

僕に手傷を負わせる程度の威力は出せた。第四席にしては上出来だろう。

しかし……無傷とはどういうことだ？」

カウンターとして撃った破道を冷静に分析しながら問うてくる。

何とか通じる……!!」

「少しばかり改造しただけですよ。」

規模を大幅に縮小、代償を体の一部から自身全てに変更する代わりに

『焼け焦げた自身の一部を触媒にする』のではなく、『自身ごと焼け焦がす』鬼道へとね驚きつつ納得した藍染は泰然として隙がない

「なるほど……全体的に劣化しているくせに代償が増えている。」

君以外には出来損ないといって差し支えないが……少し面倒だな。」

破道の九十六・改『一刀火葬』

本来なら焼け焦げた自身の一部を触媒にする犠牲破道である。

私はこれに目をつけ、このためだけに鬼道を鍛えた。

代償を以って発動するモノから、自身を核に発動するモノへ。

他の誰が使っても自爆するだけの特效技になったが、

私にとってはノーリスクの便利技だ。なんせ

私には鬼道は通じない！

自分を核としてしか撃てず、本来の範囲の十分の一以下と短射程ではあるが、高威力の炎撃をガンガン叩き込めるのでうかつに近寄っては来れない。

遠距離からの鬼道は効かない。

近接においても、原作で恋次が赤火砲でやっていたように手元で押しとどめることで贗殿遮那に焰を纏わせ、さながら『紅蓮の大太刀』として斬撃を強化できる。

自身及び得物ごと自爆する技は相性が最高だったのだ。

「ふむ．．．そろそろ時間も近い。

本命を済ませようか。

ギン」

——射殺せ、『神鎗』

え？阿散井君もう負けてんのっ!?

横合いからの刺突に何とか大太刀を差し込み跳ぶことで市丸の攻撃をいなす。

13km先まで吹っ飛ばしてくれるなんて親切だなあ！（大歓喜）

なんとかかんとか生き残った！

でも藍染の能力効いてないの卯ノ花隊長達にバレたし、なんなら催眠に掛かってなかったのに指摘しなかったのってヤバイ？

死にたくねえよ・・・

藍染討伐のメンツにもえらばれたくない・・・

私の明日はもう真っ暗かもしれない・・・